

外国語活動の教科化に向けた取組～外国語活動・英語科の充実に向けて～

I 現行における成果と課題

- 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとした取組を通じて充実が図られてきた。
- 小中連携外国語活動として小学校外国語活動に中学校英語科教員の専門性を生かした指導を取り入れることで、小学校教員の指導力の向上と、中学校への円滑な接続が図られた。
- グローバル化が急速に発展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- 学年が上がるにつれて児童・生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。
- 中学校等においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点がおかれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「聞くこと」などの言語活動に課題がある。

II 課題を踏まえた指導のポイント

☆ 中学校

- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を外国語で行うことを基本とする。
- 例) 短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする。

教科型 中学校

年間140単位時間

- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

中学校
で1600
～1800
語程度

☆ 小学校 高学年

- 教科として学ぶため、45分に15分を加えた60分の授業の設定等の柔軟な時間割編成を可能とする。
- 例) なじみのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて友達に質問したり質問に答えたりすることができる。

教科型 小学校高学年

年間70単位時間

- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることに加えて読んだり書いたりすることについて態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。

小学校
で600
～700
語程度

☆ 小学校 中学年

- 主に学級担任が外国語指導助手(ALT)等を一層積極的に活用したティーム・ティーチング(T・T)を中心とした指導を行う。

活動型 小学校中学年

年間35単位時間

- 外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることを中心にしたコミュニケーション能力の素地を養う。

III 学校への支援

1 段階的指導計画(時間)の設定

平成32年度の小学校英語教育の教科化及び外国語活動の3・4年生実施に向けた、段階的指導計画(時間)の設定

平成28年度	平成29年度(2017)	平成30年度(2018)	平成31年度(2019)	平成32年度(2020)
	第3学年 10～15h	第3学年 15～35h	第3学年 20～35h	第3学年(外国語活動)35h
	第4学年 10～15h	第4学年 15～35h	第4学年 20～35h	第4学年(外国語活動)35h
第5学年 35h	第5学年 35～40h	第5学年 40～50h	第5学年 40～60h	第5学年(教科)70h
第6学年 35h	第6学年 35～40h	第6学年 40～50h	第6学年 40～60h	第6学年(教科)70h

◇ 平成32(2020)年度に全面実施される。外国語の学習では、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを通じて獲得される。

2 外国語指導助手(ALT)の拡充

これまでの外国語指導助手(ALT)の配置を、平成29年度から、市内全小学校、3・4年生を対象を拡大予定。

予定日数 小学校815日、中学校1185日
※各校、年間10日間程度
(1日7時間30分)

3 効果的な外国語指導助手(ALT)活用方法・評価の開発

担任及び英語科担当と外国語指導助手(ALT)の効果的なティーム・ティーチング(T・T)及び評価の在り方を、研究・開発し、リーフレット及び公開授業を通して、市内全小学校へ還元する。

4 小中連携「外国語活動」開発委員会の設置

平成28年度から平成29年度にかけて、開発委員会を設置し、授業研究のPDCAサイクル化を図ることにより、外国語活動及び英語科における効果的な授業モデル・教材を開発する。
・研究授業の公開 ・リーフレットの作成

5 9年間を見通したカリキュラムの編成

平成27年度から行っている小中連携外国語活動の推進を通して9年間を見通したカリキュラム編成のPDCAサイクル化の実施により、外国語活動、英語科教育の充実を図る。